

佐世保市

国際交流による地域活性化を目指して



長崎県佐世保市企画部国際政策課課長補佐 石丸 雄聡

佐世保市の概要

佐世保市は長崎県北部の中心都市で、人口は約25万5,000人、面積は約426km²です。江戸時代までは一農漁村でしたが、明治22年に旧海軍の鎮守府が設置され急激に人口が増加しました。

現在は、米海軍基地や海上自衛隊が所在し、関連産業として造船業が発展するとともに、日本最大級のテーマパークである「ハウステンボス」や208の島々が連なり島の密度が日本一と言われている風光明媚な「西海国立公園九十九島」（2015年で国立公園指定60周年）のほか、米海軍のレシピを基に佐世保流にアレンジされた「佐世保バーガー」や日本一の生産量を誇る「とらふぐ」などの名物があり、年間約540万人の人々が国内外から訪れる観光都市でもあります。

地域国際化の推進

○姉妹都市などとの交流

本市は現在、アメリカ、オーストラリア、中国、韓国、日本の8都市1港と姉妹都市などの提携を行っています。交流内容は都市によってさまざまですが、本市では青少年交流や市民交流を重点に交流を促進しています。

青少年交流では、異文化体験を通して地域の国際化に貢献できる人材を育成するため、市内の中高生を対象にアメリカ、オーストラリア、韓国の都市との間で相互ホームステイ事業を実施しています。参

加した生徒からは、「外国や国際交流に対し興味を持つようになった」、「留学などで海外に行きたい」などの声が聞かれ、こうした経験が国際感覚の醸成につながっているものと思います。

市民交流では、両都市市民の交流機会の場を創出する取り組みを行っています。昨年は、本市を代表するお祭りである「YOSAKOIさせぼ祭り」（175チーム、約7,000人が参加）に、韓国の姉妹都市からテコンドー演舞団が参加し、韓国の



YOSAKOIさせぼ祭りに参加したテコンドー演舞団

国技であるテコンドーとダンスを組み合わせた演舞を披露したほか、本市が文化芸術に親しむために開催している「させぼ文化ウィーク」において、中国の友好交流都市の大学の音楽学部と佐世保市民管弦楽団との共演によりコンサートを行うなど、両都市市民の異文化体験の機会提供に努めています。市民主体の国際交流をサポートするための「国際交流促進補助制度」も年々利用が増加しており、海外姉妹都市などの市民との文化、芸術、スポーツなどを通じた交流が少しずつ促進されています。

○留学生支援

本市の高等教育機関には約350人の留学生が在籍しています。これまでは中国・韓国からの留学生がほとんどでしたが、最近では東南アジアからの留学生が少しずつ増えてきています。

これまでも留学生を対象に環境問題やゴミの分別の方法・意義などを学ぶ環境学習会の開催や市内観光地などを評価するモニターツアーに取り組んできましたが、さまざまな国からの留学生が増えたことなどで、新たな課題への対応が必要となってきました。そのため留学生を受け入れている高等教育機関、産業界、行政が連携して昨年「佐世保地域留学生支援交流推進協議会」を立ち上げ、各機関が連携することで課題解決や交流促進につながる取り組みを行うこととし、新たに留学生のアルバイト支援や留学生と日本人との交流事業などを実施しています。将来的には企業と留学生との交流機会を創出することにより



留学生と日本人とのスポーツ交流大会

戦略的な国際交流の推進

本市では東アジアのほか近年経済成長が続く東南アジアをターゲットとして、その経済成長を取り込み地域活性化につなげていくことを目的として、海外における観光プロモーションや観光客受入態勢の整備、海外ビジネス展開の支援などを行っています。

○佐世保市長トップセールス

本市では海外観光客誘致や経済交流などを目的に市長トップセールスを実施しています。昨年は訪日ビザが免除され、今後の観光客の増加が見込まれるタイ、マレーシアへ市長と観光関係者による訪問団を派遣し、観光トップセールスを行いました。官民が連携して両国の旅行業界への観光PRや国際チャーター専門の航空会社との意見交換などを行い、今後につながる足掛かりになったものと思います。現地旅行業界などへフォローセールスを行いながら、本市へのインバウンド促進につながるよう取り組みを進めています。

○クルーズ客船の誘致促進・受入態勢整備

本市が管理する佐世保港では、昨年4月に70,000tクラスの船舶の接岸が可能な新岸壁が供用を開始しました（今年4月には国際ターミナルも供用開始予

定）。これまでクルーズ客船の誘致に積極的に取り組んできたこともあり、今年1月までにクルーズ客船が11回入港しています。

このうち海外発着のクルーズ客船は2回で、いずれも中国発着のため多くの中国人観光客が訪れました。2回のうち1回は長崎国体の開催日とも重なり、周遊のための貸切バスが確保できず、中国人乗船客約1,800人は近隣の商業施設などへ徒歩で移動し、一時は買物客で混雑する大変な状況となりました。

本市では2011年に産学官が連携して「佐世保市外国人観光客ウェルカム協議会」を組織し、ガイドブックの多言語化や商店街での中国銀聯カード対応端末の導入、外国語対応を行う市民ボランティアの育成などの受入態勢整備に努めてきましたが、今回初めて中国人観光客を乗せたクルーズ客船を受け入れた結果、新たな課題も出てきました。今後も中国発着のクルーズ客船の入港が見込まれることから、市内での観光や買い物、飲食場所の確保などの環境整備を行い、乗船客や船社の満足度を高めることにより入港回数の増加を図り、地域活性化につなげていきたいと思



中国発着のクルーズ船の状況

今後の交流に向けて

本市の市民団体には、姉妹都市などとの交流を目的に設立された団体もあり、これまで積み重ねてきた長年の交流により、両市民間での友好交流が実を結んできていると思います。今後も行政間のネットワークを大切に、その関係を継続しながら、両市民間による交流を促進していくことが両都市の発展につながっていくものと思います。

また、海外との観光や経済交流については、本市は日本国内の本土では最も西に位置しており、中国や韓国の主要都市とは、東京よりも近い距離関係にあります。このような人・物などの移動に際しての地理的な優位性に加え、既存の地域資源を有効にPRしながら、引き続き観光客の増加などによる地域活性化に取り組んでいきたいと思